

十島村教育委員会だより 令和2年7月号

さわやか情報

南北160km

「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771



【祝 南日本新聞「6月若い目賞」
学校賞受賞 十島村立宝島小学校】

【シリーズ 新聞に投稿】
(令和2年6月27日南日本新聞「若い目」掲載)
宝島小学校五年 向井彪悟

「一学期を振り返って」

十島村教育長 有村 孝一

今年の梅雨は、あまりにも大きな被害を新聞や報道で目の当たりにすることが多いです。6月の中之島を中心とした豪雨災害をはじめ、全国各地大雨の被害が拡散しています。加えて、コロナウィルスの感染も広範囲に渡り、なかなか思うに任せない状況が続いております。

そのようなこともあり、今年度は、なかなか島に行くことができずでしたが、5月26日の悪石島小・中学校訪問、6月23日の平島小中学校、そして、梅雨の晴れ間をいかくぐつての2か島の村政座談会(7月22日現在)と、やっと島の空気を吸うことができました。

島では、児童生徒の学習の様子などが見たり、島民の皆さんと触れ合うことができまして、一安心いたしました。コロナウィルス感染防止のために、十島各島への出入りの、自粛が要請されている状況です。くれぐれも、健康に留意して過ごしていただきたいと思います。

さて、今年度本村の口之島、中之島、宝島に、それぞれ3名の新規採用教員が配置されました。おそらく十島村始まった以来のことではないかと思えます。新規採用の教員は、1年間にわたる初任研修を受けることになっています。そのため小学校6学級、中学校3学級以上の学校に配置してきたところです。しかし、今年から他県等で経験して採用をされた教員については、初任研修を免除されることになったので、十島村にも新規採用教員が配置されることになりました。経験者ということで即戦力として期待されます。

この一学期は、コロナの関係での休校などがあり、大変心配をおかけいたしました。初任者はもちろん新任の先生たちも5月の連休も島にいなければなり

んでした。そんな中、夏休みも2日程度短縮しなければなりません。何とか皆さんと共にこのコロナ禍を乗り越えていきたいものです。

そのようなことで、この7月22日が終業式となります。ちょうど40日間の夏休みに入ります。元気でけがのないように過ごして、たくましくなった姿で2学期を迎えてほしいと思います。



今月の「十島パワーにパチリ！」



タモトユリ

タモトユリが咲きました。口之島小・中学校尾崎教頭先生から、今年のタモトユリの画像を送っていただきました。今年も、なかなか栽培が難しく、学校内のタモトユリは咲かなかったとお聞きしています。県文化財「タモトユリ」は、「口之島の西岸にあったが、現在は、絶滅して、岐阜県の栽培家から逆輸入している。花は、白色で、上を向いて開き、芳香を放つ。」(村史60ページ)と記載され、絶滅

ウケユリ

危険種として指定されています。右下のユリは、小宝島小・中学校の萩原教頭先生から送っていただいた「ウケユリ」の画像です。島内の方からいただいたということでしたが、ウケユリも滅亡危険種として登録されているようです。タモトユリ同様、空を向いて咲かせています。まるで、上を向いていこうと教えてくれているようです。



中之島小二年
久木山 旭



とべるかな
足もどきどき
心もどきどき
なわはかちかち
なってるい
ほのかさんがとんで
いよいかちぼくとんで
ドんとちやくち
やんたあ
とべたぞ

おおなわとび

子供のうた
六月二十三日 南日本新聞掲載

宝島小五年
福島 実優花

赤いお花
黄色いお花
白いお花
何してる?
こちよこちよしてみたよ
何て言った?
くすくすして
くねくねして
笑ってるね



こちよこちよ

子供のうた
六月二十九日 南日本新聞掲載

シリーズ・・・十島村で学ぶ 「喜びと幸せがたくさんある諏訪之瀬島」 諏訪之瀬島中学校1年 池島希生

私の名前は「きい」です。もともとは、千葉県市川市に住んでいましたが、引っ越して長野県に移り住み、長野県の北相木村から今年山海留学生として諏訪之瀬島に来ました。

私の毎日は、喜びと幸せでいっぱいです。朝、私が元氣よく大きな声で「おはようございます。」と言うと、島の皆さんや友達、先生方が、「おはようございます。」と笑顔で返してくれます。おかげで、気持ちのいい一日が始まります。寮生活でも、夕食を食べながら、寮生のみんなと楽しく食べたり、話をしたりしながら過ごしているので、幸せな気持ちになります。

そして、島はわたしに感動も与えてくれます。青くきれいな海、今にもおちてきそうな星。梅雨時期にこんな大雨がふるのにはびっくりしましたが、毎日が感動の連続です。そんな島の中で、私が頑張っていることがあります。それは、人から信頼されることです。以前いたところでは、あまり人に信頼してもらえなかったのですが、諏訪之瀬島では、信頼される人になりたいと思っています。そのために、私にいろいろ教えてくれる島の皆さんの役に立つことを頑張りたいと心掛けています。また、レントゲンを通して、人の体の中の病気を調べる放射線技師を目指したいという将来の夢のためにも、私は、まだまだ頑張らないといけない事がたくさんあります。将来の夢に向かって、ここ諏訪之瀬島で頑張っていきたいと思っています。



【中之島小・中学校からのメッセージ】

教諭 富沢喜美彦

もともと島出身だったので、中之島に赴任することを楽しみにしていました。単身赴任のため、家族との別れはつらく感じましたが、素直な児童・生徒、協力的な地域の方々のおかげで1年間を過ごすことができました。最近では、上鹿することもおっくうになるほど島の生活が根付いてきました。

食事を抜いても魚釣りに夢中になるほど釣り好きな私は、昨年からカスタミアジ、ロウニンアジ、ムロアジ、パラフエダイ、ツムブリなどいろんな魚種を釣り上げることができ、趣味の時間を満喫させてもらっています。(トビウオは釣るのではなく網ですくうというのにはびっくりでした。)



中之島での勤務の期間に、中之島の良さを生かした活動を工夫し、実践することができたらと思っています。

『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

私は中学校籍ですので、どうしても後の高校入試を意識しがちになり、いわゆる「座学」を中心に考えてしまいます。そうすると大自然に恵まれた環境をいかした体験的活動が減ってしまうような気がします。

豊かな自然には、豊かな心情や創造性をはぐくむ力があります。それぞれの島の豊かな自然を生かした体験的活動を工夫し、子どもたちの成長を支えていきたいものです。そして、将来は帰島して島の生活を支えていくことができる人材を育てていくことができたらと思っています。